

盛岡市動物公園再生事業検討会議（第2回）について

1 事業検討会議の概要

- (1) 日時 平成30年8月23日（木）10:30～12:30
- (2) 会場 プラザおでって（3F） おでってホール
- (3) 参加者 85人（一般市民，行政関係者等）

2 説明項目

- (1) 動物公園のあり方～憩いの場かつ野生動物保全・研究・教育センターへ
説明者：事業検討会議委員 福井 大祐
- (2) 岩手県鳥獣保護センターについて 説明者：岩手県 自然保護課
- (3) （仮題）盛岡市動物公園デザインコンセプトについて 説明者：事業検討会議委員 大島 芳彦

3 事業検討会議委員の意見内容等

(1) 事業検討会議委員

- ア 清水 義次 （株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）
- イ 青木 純 （株式会社まめくらし代表取締役）
- ウ 大島 芳彦 （株式会社ブルースタジオ専務取締役）
- エ 福井 大祐 （岩手大学農学部共同獣医学科准教授）
- オ 向井 猛 （札幌市保健福祉局衛生研究所生活科学課食品化学係長）

(2) 事業検討会議委員の主な意見

ア 清水 義次

動物関連施設が集約されるのであれば，日本にない動物研究センターを設置すれば盛岡市の教育水準の向上に繋がり，事業効果が大きいと感じた。

市民，議会及び行政の関わる人が変わらなければ再生はないので，当事者として関わり，再生しようという強い意識が必要である。

イ 青木 純

大島さんのデザインコンセプトを伺い，実現できる内容で市民が誇りに思える動物公園になると確信した。

ウ 大島 芳彦

人と動物，市街地と自然，の境界にある岩山エリアだからこそできる事業計画と考えている。

エ 福井 大祐

展示動物，野生動物，伴侶動物が集まる日本のどこにもないことができる。

オ 向井 猛

動物愛護センターや鳥獣保護センターがある動物公園は日本のどこにもないので，動物公園利用者にも動物愛護センター及び鳥獣保護センターを利用して欲しい。

4 アンケート結果

- (1) 回答者 14人
- (2) 寄せられた回答等

動物公園	ア 再生とは建築がメインと思っていたが，植栽計画でイメージが変わることが理解できた。
	イ 経費を削減しながら，再生できるという希望が持てた。
	ウ デザインコンセプトのようになったら素敵だと感じた。（県外から参加）
	エ 動物公園が素晴らしい施設になると感じた。
	オ デザインコンセプトのとおり出来れば，素敵なことで，楽しい場所になる。

	<p>カ デザインコンセプトをやり抜く覚悟が必要である。</p> <p>キ 市の施策にデザイン的な視点がないが、市の事業ではじめてデザイン的な視点を伺った。</p> <p>ク デザイン力のある方々と連携できることが大事だと理解できた。</p> <p>ケ 暗いイメージの動物公園が、明るい動物園に変わると感じた。</p> <p>コ 動物が生きやすい環境を造る必要性を感じた。</p> <p>サ テーマパーク的な施設とし、研究施設や福祉的な施設は不要である。</p> <p>シ 姉妹都市と連携し、動物交換や飼育技術の向上に努めて欲しい。</p>
鳥 獣 C	<p>ア 動物と関わる距離感の大切さが理解できた。</p> <p>イ 人が飼えきれず無責任に放った猫が鳥獣に影響を及ぼしていることは驚きだった。</p> <p>ウ 大学と連携できれば多くの方が地球環境保全を理解することが出来ると思う。</p>
そ の 他	<p>ア 他の都市公園にもデザインを持ち込めば、商品価値が生み出せると思う。</p> <p>イ 動物公園の物語に動物愛護センターは組み込まれるのだろうか。</p> <p>ウ 動物愛護Cの併設は、動物の専門施設、研究施設として集約するメリットは大きい。</p> <p>エ ボランティアを募るには、交通アクセスの改善は必須であり、市は交通改善策を示すべきである。</p> <p>オ 盛岡市のバイオマス構想との連携を考えるべきである。</p>